



# 2016年度 天文資料

平成28年度 第8号 (11月号)

平成28年10月30日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



## <11月はスーパームーンとしし座流星群>

地球と月の間の距離は常に一定でなく、わずかに変化します。したがって、地球から見える月の大きさは、その時によって変わります。そのため満月の大きさも変化するわけですが、年間で最も大きく見える満月を「スーパームーン」という呼び方が、昨年あたりから広まってきました。今年のスーパームーンは11月14日ですが、これが**68年ぶりの大きな満月**なのです。

また、11月の天文現象と言えば「しし座流星群」があげられます。極大日は17日で、この日は満月過ぎの大きな月があるため、条件はよくないのですが、**明るい火球が現れやすい流星群**なので、目が離せません。

今回はこの「スーパームーン」と、「しし座流星群」を紹介します。

## <11月14日は68年ぶりの大きなスーパームーン>

年に1度は必ずやってくるスーパームーン、例年ならことさら話題にするほどのものではありませんが、今回のスーパームーンは1948年1月26日以来、**68年ぶりの接近**なのです。

今年一番小さく見えた満月は4月22日、この時の満月の視直径※1は29.4°、それに対し今回11月14日の満月の視直径は33.5°、その差は4.1°もあります。何気なく見た感じでは、その差はわからないかもしれませんが、写真に撮って比べると、その差がわかるでしょう。

なお、次に今回と同じ規模の大きな満月が見られるのは**18年後の2034年11月26日**です。ぜひ、今回の大きな満月を観察し、記録しておきたいものです。

※1 視直径：地球から見た天体の2点間の角度



## <11月17日、しし座流星群が極大>

2001年11月の大量出現の後、出現数が少なくなっているしし座流星群ですが、それでも**時折明るい火球が出現**するので、見逃すことができない流星群です。

母天体※2は、**テンペル・タートル彗星**※3。今年の出現の極大は、11月17日(木)の19時頃です。放射点は、しし座の「ししのおおがま」の中にありますので、**放射点が現れるのは、夜半過ぎ**となります。でも極大は19時頃ですので、宵のうちからの出現も期待できます。早くから観察するのもいいでしょう。ただ、17日は満月過ぎの大きな月が出ますので、**条件としてはあまりよくありません**。

※2 母天体：流星群を出現させる原因となる天体、彗星が多い。

※3 テンペル・タートル彗星：1865年から翌年にかけて、エルンスト・テンペルとホレス・タートルが発見した彗星。33年周期で、太陽のまわりを公転する。2014年に、遠日点(公転軌道の中で太陽から最も遠い位置)を通過している。

